

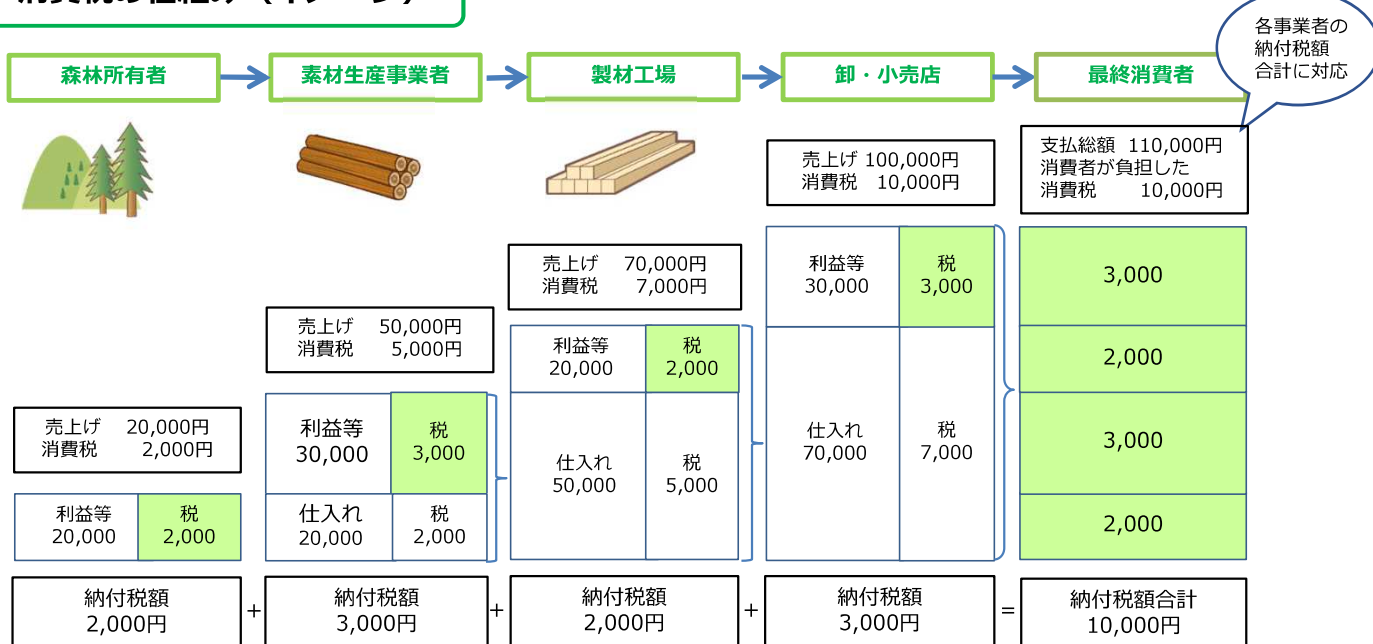
消費税のインボイス制度（適格請求書等保存方式）が令和5年10月1日から始まります！



○ 消費税とは

- 商品の販売やサービスの提供などの取引に対して広く公平に課される税です。
- 消費税は消費者が負担しますが、納税は事業者が行います。
- 消費税は、売上げに係る消費税額から、仕入れに係る消費税額を差し引いて計算した額を納税します。（仕入れに係る消費税額を差し引くことを「**仕入税額控除**」といいます）

消費税の仕組み（イメージ）



○ インボイス制度のポイント

- 令和5年10月1日から、事業者が**仕入税額控除**を行うためには、原則として、**仕入先からインボイス（適格請求書）を発行してもらい、保存しておく必要**があります。
- このインボイスは、**税務署長の登録を受けたインボイス発行事業者（課税事業者）のみ**が発行できます。（免税事業者は、インボイス発行事業者の登録を受けられないためインボイスの発行ができません。）
- 登録を受けると、**課税事業者として消費税の申告が必要**となります。



納付する消費税額の計算方法

〔※ 消費税額は、税率ごとに区分して計算する必要があります〕

$$\text{売上げに係る消費税額 (売上税額)} \overset{\text{マイナス}}{-} \text{仕入れや経費に係る消費税額 (仕入税額)} = \text{納付する税額 (納付税額)}$$

仕入れに係る消費税額を差し引くこと = **仕入税額控除**

仕入税額控除には **インボイスの保存が必要**

インボイスがなければ仕入税額控除できない※

※ 一定期間、経過措置が設けられています

インボイス（適格請求書）とは？

- 丸太等を購入した買手に対し、正確な適用税率や消費税額等を伝えるために、登録番号※、適用税率、消費税額等を記載した請求書です。
(※ 登録番号は、登録後に税務署から通知される番号です)
- 「インボイス」という名称の書類を新たに作成する必要はなく、現在の請求書や領収書等に不足する項目を追加するイメージです。

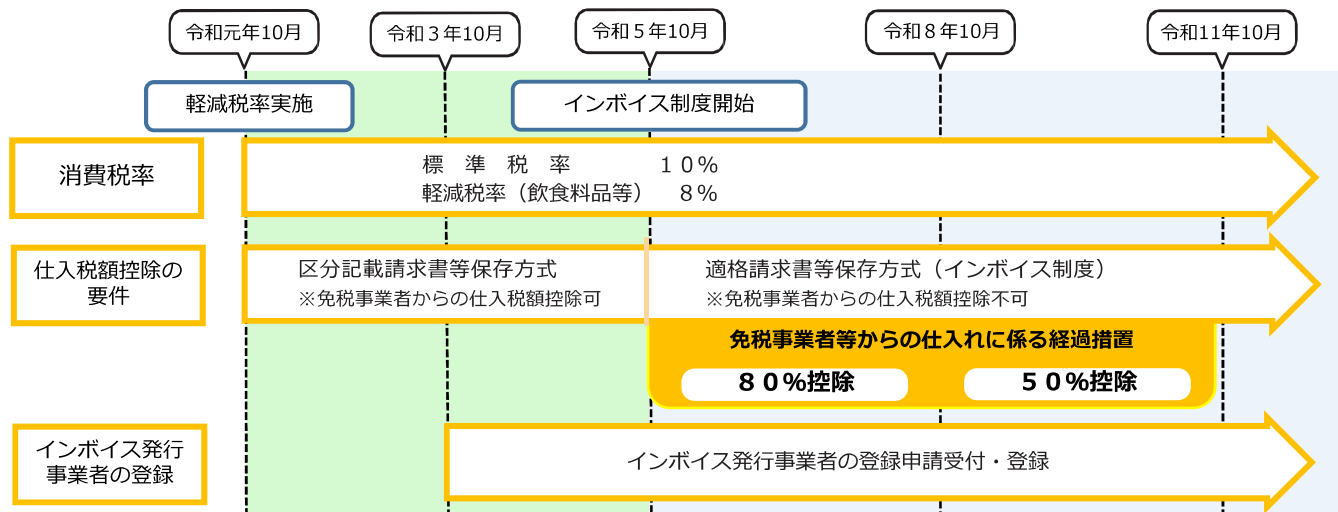
【インボイスのイメージ】

請求書			
●●(株)御中	登録番号	〇〇会社	
		(T1234...)	
〇年〇月分	請求金額	115,400円	
〇月〇日	丸太	110,000円	
〇月〇日	乾しいたけ※	5,400円	
	合計	115,400円	
	適用税率		
	10%対象	110,000円	内税 10,000円
	8%対象	5,400円	内税 400円
	※は軽減税率対象		消費税額等

赤字が従来の区分記載請求書との変更点 →

○ スケジュール及び免税事業者からの課税仕入れに係る経過措置

- 制度開始日（令和5年10月1日）からインボイス発行事業者となるためには、**令和5年9月30日までに登録申請書を提出する必要があります**。
(登録通知が届くまで一定期間を要するため、登録を受ける事をお決めの方は、お早めの申請をおすすめします)
- インボイス制度の開始後6年間（令和11年9月30日まで）は、**免税事業者等が発行する従来の区分記載請求書等に基づき、一定の割合で仕入税額控除ができる経過措置**が設けられています（下図）。



○ インボイスの保存を必要としない仕入税額控除の特例

- 森林所有者や林業者等が森林組合や農協等に委託販売する場合（組合員が、無条件委託方式かつ共同計算方式により販売委託するものに限る※1）は、インボイスの交付義務が免除され、購入事業者は、森林組合等が発行する書類に基づいて仕入税額控除をすることができます。（**協同組合特例**）

① 無条件委託方式

出荷した農林水産物について、売値、出荷時期、出荷先等の条件を付けずに、その販売を委託すること

② 共同計算方式

一定の期間における農林水産物の譲渡に係る対価の額をその農林水産物の種類、品質、等級その他の区分ごとに平均した価格をもって算出した金額を基礎として精算すること



- 卸売市場※2を通じた生鮮食料品等の委託販売の場合（中央・地方卸売市場とそれらに準ずる市場に限る）**についても、インボイスの交付義務が免除され、購入事業者は卸売市場等の発行する一定の書類の保存で、仕入税額控除が可能となります。（**卸売市場特例**）

※1 原木市場等では、一般的に、それぞれの椚に含まれる出荷者の材の数量が把握でき、出荷者ごとの材の数量と椚ごとの単価により精算されますが、このような精算方法は共同計算方式には当たりません。

※2 特例の対象となる卸売市場とは生鮮食料品等の卸売のために開設される市場であって、木材市場は対象となりません。

免税事業者の場合

(基準期間における課税売上高が1,000万円以下の事業者。消費税の納税義務が免除されます。)

<売り先との関係>

- ① インボイスを発行できません。
- ② 売り先が消費者、免税事業者、簡易課税事業者である場合、森林組合、農協、事業協同組合等への委託販売を行う場合（組合員が無条件委託方式かつ共同計算方式により販売委託するものに限り※1）、卸売市場を通じた生鮮食料品等の委託販売を行う場合（中央・地方卸売市場とそれらに準ずる市場に限り※1）は、インボイスの発行を求められないため、これまでの取引と何ら変わりません。
※1 原木市場等では、一般的に、それぞれの椚に含まれる出荷者の材の数量が把握でき、出荷者ごとの材の数量と椚ごとの単価により精算されますが、このような精算方法は共同計算方式には当たりません。
- ③ 売り先が簡易課税制度を選択していない課税事業者である場合は、売り先が仕入税額控除をできなくなるため※2・3、売り先と価格面を含め適正な取引条件等を話し合っておいて下さい。なお、今後の経営発展等を考えて、課税事業者（簡易課税事業者を含む）へ転換することも選択肢の一つとして考えられます。
※4・5
※2 制度開始後6年間は、免税事業者の発行する従来の区分記載請求書等に基づき、一定割合の仕入税額控除ができる経過措置が設けられています（P2）。
※3 売り先が課税売上高1億円以下の事業者である場合、制度開始後6年間は、税込1万円未満の少額な取引について、インボイスの保存がなくても仕入税額控除ができる措置が設けられているため、これまでの取引と変わりません。
※4 インボイス発行事業者の登録を受けるかどうか（課税事業者等へ転換するかどうか）は事業者の任意です。
※5 インボイス制度を機に、免税事業者からインボイス発行事業者となる場合、制度開始から3年間は、納税額を売上税額の2割に軽減する措置（2割特例）が設けられています。2割特例は確定申告時に選択することができ、当該事業者が簡易課税制度を選択していたとしても、確定申告時に2割特例を選択することができます。

<仕入先との関係>

特段の対応の必要はありません。



免税事業者の方や、取引先が免税事業者である場合の対応に関する考え方

仕入先である免税事業者との取引について、インボイス制度の実施を契機として取引条件を見直すことを検討する場合に、一方的な取引価格の引下げや取引の打ち切りなど、独占禁止法上の問題（優越的地位の濫用）等とならないように注意する必要があります。

免税事業者等
Q & A



関係省庁連名で、令和4年1月19日付「免税事業者及びその取引先のインボイス制度への対応に関するQ&A」（財務省・公正取引委員会・経済産業省・中小企業庁・国土交通省）が公表されていますので、制度への理解を深め、必要な対応をご検討いただく際に参考としてください。

○ インボイス制度に関するお問合せ

農林水産省（林野庁）の相談窓口

インボイス制度に関する相談ダイヤル（林業・木材産業関係）

林野庁企画課 **03-3502-8111**（内線**6064**）【受付時間】9:30～17:00（土日祝除く）
メールアドレス syouhizei_rinya@maff.go.jp

林野庁サイト



国税庁ホームページ インボイス制度特設サイト

インボイス制度のより詳しい情報や、国税庁が行っているオンライン説明会の模様、申請手続きに関することや、Q&Aなどを掲載しています

国税庁特設サイト



財務省ホームページ「令和5年度改正におけるインボイス制度の改正について」

令和5年度税制改正における、インボイス制度の負担軽減措置に係る改正内容について掲載しています

税制改正特設サイト



インボイスコールセンター

インボイス制度に関する一般的なご質問やご相談は、以下で受け付けています

4 【専用ダイヤル】0120-205-553 【受付時間】9:00～17:00（土日祝除く）

令和5年5月版